

政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	5-3 都市農林業を振興する
施策	5-3-1 新鮮で安全・安心な農畜産物の安定供給

指標NO	166
------	-----

指標名	千葉市産の農畜産物を買いたいと思う	単位	%
-----	-------------------	----	---

担当局(区)	経済農政局
--------	-------

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	69.0	72.0	75.0	◎
現状値	67.2	75.7	—	—	

目標設定の考え方	市内で生産された、新鮮で安心な農畜産物が市民により多く供給されるよう、市内産農畜産物の販売機会の拡大等を通じ、値の向上を目指す。
----------	--

【達成状況の分析】	地産地消キャンペーンの実施など、地産地消の取組みを推進したことにより、消費者の健康志向及び、食品に対する安全志向の高まり、地元の生産者の見える農産物への志向が高まったと考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】	引き続き、市内で生産された、新鮮で安心な農産物を市民に供給し、消費者と生産者がより身近で、信頼関係を築けるように地産地消を推進していく。また、市内の量販店において地場農産物コーナーの設置は増えているが、市内産農産物を市民が購入できる機会が増えるよう、流通等の課題を整理し、様々な販売店や飲食店での取り扱いを増やす。

指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	千産千消(地産地消)の推進	地産地消キャンペーン	8か所	2か所増	10か所	23か所/年	達成	0
2	千産千消(地産地消)の推進	生産認証者数	165人	15人増	180人	187人	達成	0
3	千産千消(地産地消)の推進	6次産業化認定	—	2件	2件	2件	達成	0

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	地産地消推進事業	学校給食導入品目の拡大他	9品目	10品目	10品目	9品目	概ね達成	1,599
2	農政センター運営	優良種苗の生産・供給	種苗供給数 8品目/年 78,357本/年	種苗供給数 8品目/年 107,000本/年	種苗供給数 8品目/年 107,000本/年	種苗供給数 8品目/年 41,712本/年	未達成	128,228
3	農政センター運営	栽培試験の実施	栽培試験数 7件/年	栽培試験数 7件/年	栽培試験数 7件/年	栽培試験数 7件/年	達成	0

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	5-3 都市農林業を振興する
施策	5-3-1 新鮮で安全・安心な農畜産物の安定供給

指標NO	167
------	-----

指標名	営農指導数	単位	件/年
-----	-------	----	-----

指標の説明	最新技術の知見を備えた技術職員による農業者に対する巡回指導を通じ、栽培等の課題の解決に向け指導した数	担当局(区)	経済農政局
-------	--	--------	-------

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	400	420	440	△
現状値	296	298	—	—	

目標設定の考え方	農業者の生産性の向上を図るため、巡回訪問の質の向上を図るなど、栽培に関する課題解決に向けた指導の充実を図ることとし、目標値を設定した。
----------	---

【達成状況の分析】
 農業者の生産性を向上させるため、巡回指導の質を高めること及び回数を増やすことが本事業の目的であったが、H26末値では、回数の目標値を達成することができなかった。
 主な原因として、高齢化により農業者の離農が進み、当初考えていた巡回対象の農業者そのものが減少してしまったことや、H26年2月の大雪被害により、巡回指導以外の業務が大幅に増え、計画通りに指導することができなくなってしまったことが考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】
 農業者の抱える問題は増加しており、かつ多様化している。このような現状に合わせて、指導回数の積み上げの基となっている営農指導計画の見直しを進める。営農指導計画の見直しでは、地域、品目、経営体ごとの問題点を洗い出したうえで、目的とその課題を設定しなおし、これを解決する手段として、改めて巡回指導を計画する。
 また、営農指導計画の内容については、農業を取り巻く様々な情勢を鑑みて、その変化に応じ、その都度見直しを行う。巡回指導の進捗状況については、定期的に指導内容、巡回回数の達成状況を確認し、的確な把握に努める。

指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	農業生産団地の育成	生産近代化機械施設整備	イチゴ高設栽培施設一式 1棟(23年度事業量) 省力化機械 1台(23年度事業量) パイプハウス -	1棟 1台 4棟	1棟 1台 4棟	1棟 1台 2棟	未達成	25,200
2	環境にやさしい農業の推進	生産対策 ・フェロモントラップ導入 ・イチゴの害虫に対する天敵導入	— —	134戸 25戸	134戸 25戸	134戸 17戸	未達成	1,684
3	環境にやさしい農業の推進	地力増強機械施設の整備	1台(23年度事業量)	1台	1台	0台	未達成	1,684

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	環境保全型農業推進(土壌診断業務)	土壌診断の実施	1,291検体/年	3,900検体	1,300検体/年	1,040検体/年	概ね達成	7,853
2	農政センター運営	優良種苗の生産・供給	種苗供給数 8品目/年 78,357本/年	種苗供給数 8品目/年 107,000本/年	種苗供給数 8品目/年 107,000本/年	種苗供給数 8品目/年 41,712本/年	未達成	128,228
3	農政センター運営	栽培試験の実施	栽培試験数 7件/年	栽培試験数 7件/年	栽培試験数 7件/年	栽培試験数 7件/年	達成	0
4	営農指導巡回回数	営農指導巡回	296回/年	104回増	400回/年	298回/年	未達成	0

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	5-3 都市農林業を振興する
施策	5-3-2 安定した農業経営体の育成

指標NO	168
------	-----

指標名	営農再開面積	単位	ha
-----	--------	----	----

指標の説明	耕作放棄されている農地を解消し、営農を再開した農地面積	担当局(区)	経済農政局
-------	-----------------------------	--------	-------

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	5.9	8.0	10.8	◎
現状値	3.8	6.7	—	—	

目標設定の考え方	優良農地を確保し、有効活用を推進することは重要な課題であることから、耕作放棄地の整備や情報提供の充実を図ることとし、目標値を設定した。
----------	---

【達成状況の分析】
耕作放棄地整備事業を活用することにより、年間約70aの耕作放棄地再生が可能であるが、農業の担い手等が事業を活用し、再生後農地として利用した結果、耕作放棄地の再生が図れた。

【課題及び今後の取組みの方向性】
今後も耕作放棄地整備事業により荒廃した農地を作付が可能な状態に再生するため、農地の再生整備の経費の一部を補助し、耕作放棄地の再生を推進していく。また、耕作放棄地の解消に向け、再生した後の作付が比較的容易な作物を栽培している農家に対し、事業の趣旨を説明し、事業の活用につなげる。さらに、遊休農地情報(台帳・ホームページ)の公開、利便性の高い耕作放棄地の選定及び紹介をすることにより農地利用を促す。

指標を構成する事業

計画事業									(千円)
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	

その他事業									(千円)
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	
1	耕作放棄地整備事業	耕作放棄地の再生整備	88a/年	216a	72a/年	56a/年	未達成	689	
2	耕作放棄地対策	遊休農地情報の公開・耕作放棄地活用支援体制	実施	実施	実施	実施	達成	0	

政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	5-3 都市農林業を振興する
施策	5-3-3 農村と森林の持つ多面的機能の活用

指標NO	169
------	-----

指標名	市内の農業・農村を身近に感じる	単位	%
-----	-----------------	----	---

担当局(区)	経済農政局
--------	-------

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	32.5	35.5	40.0	△
現状値	29.5	30.4	—	—	

目標設定の考え方	地産地消の推進、地域資源を活用した都市と農村の交流促進、森林とふれあう機会を創出することで、より市民に身近な農業・農村を目指す。
----------	--

【達成状況の分析】	観光農園や体験農園の利用者数は年々増加しているが、市民に対してのPR等が足りておらず、利用したことがない人が多いのが現状であることから、指標の数値が伸びなかったと考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】	本市の農業生産や、観光農園等を市ホームページや市で開催するイベントにおいて、積極的にPRする。 また、農村地域の魅力の向上をめざし、都市と農村の交流を促進するため、農家レストラン等の開設を検討する。

指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	市民農園・観光農園の整備	体験型市民農園設備の整備	—	1か所	1か所	2か所	達成	2,505
2	市民農園・観光農園の整備	観光農園への身体障害者用トイレ設置助成	3件	3件増	6件	6件	達成	
3	里山の保全	里山地区の指定	3か所	1か所	4か所	4か所	達成	1,632
4	里山の保全	里山地区の維持管理団体への助成	—	2団体	2団体	2団体	達成	

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	都市農業交流センター管理委託	各種自主事業の実施(来場者)	128,936人/年	約29,000人増	158,000人/年	193,467人/年	達成	153,080
2	都市農業対策事業(市民農園)	市民農園の整備	29か所	2か所程度/年	36か所	34か所	概ね達成	2,100

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	5-3 都市農林業を振興する
施策	5-3-3 農村と森林の持つ多面的機能の活用

指標NO	170
------	-----

指標名	市民農園利用面積(市民100人あたり)	単位	m ²
-----	---------------------	----	----------------

指標の説明	中田都市農業交流センターの市民農園及び社千葉市園芸協会の市民農園設置管理組合に加入している市民農園の利用面積(市民100人あたり)	担当局(区)	経済農政局
-------	---	--------	-------

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	4.5	4.7	5	◎
現状値	4.1	4.93	—	—	

目標設定の考え方	都市と農村の交流を促進するため、市民農園の積極的な活用を図ることとし、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】
 休耕の農地を活用する市民農園については、開設を検討している市民に対しアドバイスを行ったり、開設に関わる補助事業を実施し、安定した市民農園の利用者の確保に努めた。また住宅地に近接する人気の高い場所に、市民農園の開設を推奨していくことで、計画的に指標を向上させることができた。

【課題及び今後の取組みの方向性】
 引き続き住宅地近接の利用率の高い場所で新たな農園の開設を支援するとともに、市民農園を開設支援する企業とのマッチングに取り組む。

指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	市民農園・観光農園の整備	体験型市民農園設備の整備	—	1か所	1か所	2か所	達成	2,505
2	市民農園・観光農園の整備	観光農園への身体障害者用トイレ設置助成	3件	3件増	6件	6件	達成	

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	都市農業交流センター管理委託	各種自主事業の実施(来場者)	128,936人/年	約29,000人増	158,000人/年	193,467人/年	達成	153,080
2	都市農業対策事業(市民農園)	市民農園の整備	29か所	2か所程度/年	36か所	34か所	概ね達成	2,100

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	5-3 都市農林業を振興する
施策	5-3-3 農村と森林の持つ多面的機能の活用

指標NO	171
------	-----

指標名	里山の保全活動参加者数	単位	人
-----	-------------	----	---

指標の説明	里山の保全活動に参加した市民及び企業等の参加者数	担当局(区)	経済農政局
-------	--------------------------	--------	-------

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	200	400	600	△
現状値	111	150	—	—	

目標設定の考え方	新たな里山の指定や普及啓発活動によって、現在活動している森林ボランティアの他、市民や企業の参画の拡大を目指すことから、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】	現在、活動している森林ボランティア団体は高齢化が進み、活動が困難となり離脱するケースがみられる。特に新規、若手参加者の獲得に苦慮している状況である。背景には「現役(若手)世代はボランティア活動を行う時間や余裕が無い。」「森林保全活動に対する魅力が薄い。」「ボランティアの具体的な成果がすぐには表れない。」などの要因が考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】	里山の指定・保全をととして、森林にかかわる人づくりの推進を図り、健全な森づくりを進めていくとともに、新たなボランティア団体の設立やリーダーとなる人材の育成に努める。その中で、森林の果たす役割や保全する重要性、そして森林ボランティアの魅力・意義をイベントや広報で市民に伝えていくことに加え、森林活動単体ではなく、環境問題全体も視野に入れ、PRを行っていく。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	里山の保全	里山地区の指定	3か所	1か所	4か所	4か所	達成	1,632
2	里山の保全	里山地区の維持管理団体への助成	—	2団体	2団体	2団体	達成	

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	森林ボランティア推進事業	林業技術研修および安全研修	10人	50人/年	50人/年	39人/年	未達成	226